

北海道白糠養護学校

学校だより

第5号 令和3年 3月24日発行

発行責任者 校長 仲條 正輝

【お問い合わせ先】

北海道白糠養護学校 学芸部

〒088-0351 白糠町和天別147-2

TEL/FAX 01547-2-5353

代表メール hakuyou@hokkaido-c.ed.jp

HP <http://www.shiranuka-yougo.hokkaido-c.ed.jp/>

「Ray Of Light」

北海道白糠養護学校 校長 仲條 正輝

3月24日の修了式をもちまして、今年度の全ての教育活動を何とか終えることができました。新型コロナウイルス感染症の対策に追われた一年間ではありましたが、本校から児童生徒・教職員の感染はなく、無事に教育活動を終えられたことにひとまず安堵しています。この間、保護者の皆様並びに白糠学園職員の皆様には、多大なご迷惑とご心配をおかけした期間もありましたが、皆様のご理解とご協力を賜り、おかげをもちまして教育活動を終えられたことに改めて深く感謝申し上げます。

長期にわたる臨時休校、学校再開後の感染症対策、身近に迫る感染症の危機など、今年度は予期せぬことの連続で、児童生徒も私たち教職員も出口のないトンネルに入ったまま、国や道の対応を参考に手探りの状態で教育活動を進めてまいりました。

夏場から徐々に教育活動の制限の緩和を進め、冬場に入りオンラインでの授業を本校でも少しずつ実施しました。1時間だけではありましたが、小学部における網走養護学校とリモートを通じた音楽の授業は、参観しているこちらも楽しくなるような授業でした。コロナ禍で小学校の児童との対面での交流が中止になってしまいましたが、画面越しの交流は児童にとってはとても楽しく貴重な時間となりました。また、高等部は例年行っていた白糠高校との交流及び共同学習をオンラインで実施しました。こちらも一度だけではありましたが、生徒達にとってはリモートであっても高校生と交流できる貴重な時間となりました。そして、報道で何度も取り上げられたオンラインによるポッチャ選抜甲子園への生徒の参加は、本校にとっても、また地元の白糠町にとっても明るい話題の一つになりました。結果は50校中22番目でしたが、初参加の本校にとっては十分に胸を張れる結果だったと思っています。

また、様々な作品展に児童生徒の多くの作品等を出品しました。全員ではありませんが、何人かの児童生徒は賞を取り、全校児童生徒の前で表彰をしました。賞状を受け取る時の児童生徒の顔はみな輝いていて、本当に嬉しそうでした。今年は外部の誰かと競い合うことも、交流することもできませんでしたが、自分で作ったものが賞を取ったことは児童生徒にとっては大きな自信や励みになったことと思います。

表題の「Ray Of Light」とは、日本語で一筋の光、光明です。

新型コロナウイルス感染症は私たちから多くものを奪いました。しかし、私たち人類はこれに打ち勝ち、克服しようと日々様々な方が奮闘しています。

教育の世界も同様です。いつまでも立ち止まってはいただけません。学校は教師の「知の集合体」です。一人では難しいこともたくさんの知恵があれば、何か妙案が浮かぶこともあります。様々なことを工夫し、できることや可能性に挑戦することで、今年は突破口を開いてきました。ポッチャ選抜甲子園への参加や作品展の出品もその一つであり、児童生徒の活躍が児童生徒をはじめ、教職員や地域にとって、暗闇を照らす一筋の光明になったことは言うまでもありません。

我が国においてもワクチンの接種が開始されましたが、現状では現在の対策の継続が必要なため、新年度においても今年度同様の対応が必要であると認識しています。

来年度もコロナ禍と向き合い、できることや可能性に挑戦し、授業のハイブリット化を図りながら、児童生徒の学びの新しい可能性を探りたいと考えます。

来年度においても皆さまのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年度白糠養護学校 学校評価と改善の方向について

教頭 小 栗 陽 介

今年も学校評価へのご協力ありがとうございました。皆様からいただいたご意見を元に、職員で解決の方向性などを話し合いました。別紙のアンケート結果とあわせてご覧ください。

1 教職員による学校評価結果（33 名中 33 名の回答）

（1）評価が高かった項目（抜粋）

13 危機事態の発生に備えている	【3. 6点】
16 日常的な環境衛生の維持	【3. 5点】
42 感染症の予防と指導	【3. 6点】

（2）改善を要すると考える項目（平均点3. 0未満）

4 生活年齢を意識した指導	【2. 9点】
8 地域の人材活用	【2. 6点】
9 校外学習などの実施	【2. 8点】
12 PTA活動の活性化	【2. 7点】
20 効果的な校内研究活動	【2. 8点】
21 計画的・組織的な校内研修	【2. 8点】
22 職員の研修への参加と専門性の向上	【2. 8点】

学校職員が
考える課題



2 学園職員による学校評価結果（18 名中 15 名の回答）

（1）評価が高かった項目（抜粋）

2 災害等の安全対策	【3. 7点】
15 個別面談における個別の指導計画の説明	【3. 5点】
16 関係機関と連携して支援会議等を開催している	【3. 5点】

（2）改善を要すると考える項目（平均点3. 0未満）

- ・ありませんでした。

学園の皆様が
考える課題



3 保護者による学校評価結果（15 名中 4 名の回答）

（1）評価が高かった項目（抜粋）

2 災害等の安全対策	【3. 8点】
4 子どもの希望実現のため関係機関と連携している	【3. 8点】
5 子どもの障がい状況を把握している	【4. 0点】

（2）改善を要すると考える項目（平均点3. 0未満）

19 授業参観や学校公開等を通して、理解を図っている	【2. 8点】
20 学校は、地域の子供たちの支援を行っている	【2. 8点】

保護者の皆様
が考える課題



4 改善の方向性

（1）教職員の学校評価を受けて

- ・「項目4 生活年齢を意識した指導」については、各学部で年齢相応の教材を使用したり、言葉かけの方法に気をつけるなど、適切な関わりについて話し合い、これからの指導のスタンスについて確認しました。

- ・「地域の人材活用」「校外学習」「職員の研修への参加」「PTA 活動」については、昨年度末からのコロナ禍による学校の方針変更も原因として考えられますが、今後ウィズコロナを想定したオンラインでの取り組み等を積極的に活用していきたいと考えています。

(2) 学園、保護者の学校評価を受けて

- ・「授業参観、学校公開、ホームページなどでの説明」に関しては、次年度以降、授業参観などは感染状況に配慮しつつ、道の指針に沿って実施を考えています。また、ホームページの更新回数を増やし、地域への情報発信を強化することとしました。同時に、学校からのお便りも、より質の高い内容を意識していきたいと思ひます。
- ・地域への支援については、早速 PTA だよりでお伝えしています。これからは折を見て、本校のコーディネーターの地域での取組などについて、お伝えします。

5 最後に

今年度はコロナ対応ということで、例年とは違った観点で評価をされた方も多くいらっしゃいました。私たちとしても何でもコロナのせいにしてしまうのは、今年限りにしたいと考えております。次年度からは皆様からいただいたご意見を胸に、アイディアを出し合いながら新しい取り組みに邁進していく所存です。

また、今回いただいたご意見の中には、本校の教育活動について肯定的な評価や温かい励ましのお言葉もたくさんありました。肯定的な評価は我々教職員の自信にもつながります。また、多くのご意見も大変ありがたく受け止めています。改めて深く感謝申し上げます。

なお、今回の学校評価につきまして、ご不明な点などがありましたら教頭までお問い合わせください。

(学校 01547-2-5353)



～卒業生の進路状況～

今年度は右記のとおり、卒業生全員が進路先を決めることができました。中学部の生徒は、自分の将来のために何が必要で、何を学ぶと良いかを判断し、特別支援学校高等部への進学を決めました。高等部の生徒は、より具体的に、何をして日中を過ごすのか、そのためにはどんな知識や技能が必要か、生活の基盤はどこに置くのかなどを考え、それぞれの進路先を決めました。自分で選んだ夢に向かってしっかり歩いてほしいと思います。

【中学部】	卒業生	2名
	○特別支援学校高等部進学	2名
【高等部】	卒業生	4名
	○入所施設	2名
	○療養介護施設	1名
	○グループホーム+生活介護	1名

進路希望先を考えるにあたり、各学校の特色やその学校で何を学びたいのか、また、福祉サービス等の制度、福祉事業所や施設の現状など、考えなければならないことがたくさんあり、各々が情報を持つことが求められます。各種報道や学校からの発信だけでは、進路希望先を考える材料としては足りません。生徒自身が体験していくことで、より深い理解へとつながります。ぜひ、学校見学、教育相談、施設見学などを活用し、進路について早い段階から考えていただきたいと思ひます。

最後になりましたが、保護者の皆様、白糠学園、地域の皆様、今年度も本校の進路指導に多大なご理解ご協力をいただき、ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。

(相談支援部：池田 千春)

卒業式

うららかに春の訪れが感じられるようになった3月7日（日）、令和2年度北海道白糠養護学校卒業式が行われました。小学部2名、中学部2名、高等部4名の児童生徒が卒業を迎え、少し緊張した面持ちで式に臨んでいました。卒業証書授与では、担任の呼名に大きな声でしっかりとこたえ、晴れやかな表情で一步一步喜びをかみしめながら歩んで卒業証書を手にしていました。

本年度は新型コロナウイルス感染症対策により、卒業生と卒業生保護者は体育館、在校生は高等部ホールでリモートでの参加となりました。歌唱は行わずに国歌や校歌を聴いたり、在校生からのお祝いの言葉や卒業生による『おもいで』発表は、会場にいる保護者や高等部ホールにいる在校生にスクリーンを通して伝えられました。

夢と希望を胸に秘め、新しい世界へと歩み始めた8名の卒業生が、新たな生活に期待を膨らませ、健康に明るく過ごすことができるように全職員で願っています。（教務部：伊藤 ルナ）



編集後記

今年度も本号が最後の発行となりました。学校だよりを通して本校の行事の様子や日々の取り組みの様子などを十分に皆様にお伝えすることができましたでしょうか。

本校のホームページ（www.shiranuka-yougo.hokkaido-c.ed.jp）では、情報の更新を行い、皆様に最新の情報や詳しい内容を掲載しております。そちらの方も併せましてご覧いただければ幸いです。

今後とも、学校だより、ホームページをご愛読のほどよろしくお願いいたします。

（学芸部：久保真希 佐藤彰信）